

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1495300210	事業の開始年月日	平成24年8月1日
		指定年月日	平成24年8月1日
法人名	株式会社 保健科学研究所		
事業所名	グループホーム 高津くぬぎ園		
所在地	(〒213 -0005) 神奈川県川崎市高津区北見方1-2-19		
サービス種別 定員等	認知症対応型共同生活介護	定員 計	18 名
		ユニット数	2 ユニット
自己評価作成日	令和7年10月24日	評価結果 市町村受理日	令和8年2月16日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください

基本情報リンク先	https://www.reiwakaigo.co.jp/facility/kunugi/
----------	---

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

基本理念に基づいた「利用者の人格の尊重」を第一に「今を大切にしたい支援」を行うよう心がけています。利用者様にとっても、介護する職員にとっても後悔をしない介護を目指し、1日1日を大切に過ごすことに重点を置いています。また、未だに感染症の脅威が拭えずにいますが、少しずつ日常生活が戻りつつある中、ご家族様のご理解とご協力のもと、面会時の場所や時間の制限を設け、利用者様への感染リスクを軽減しております。感染対策をしながら季節の行事として、ベトナム職員による郷土料理レクリエーションやクリスマスのビュッフェ形式食事会、北見方町会の御神輿の太鼓を叩かせて頂くなどの交流を行っています。町内会長や民生員の協力もあり、地域の皆様にくぬぎ園を知っていただいております。お互いに共存し、支え合っている様、地域に根付いた介護施設を目指して参りたいと思っています。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	ナルク神奈川福祉サービス第三者評価事業部		
所在地	神奈川県横浜市西区南浅間町8-22-207		
訪問調査日	令和7年12月16日	評価機関 評価決定日	令和7年12月29日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

【事業所の優れている点】
 ◇勤続年数の長い職員の存在
 ・10年以上勤務している職員が6名、9年～6年勤務が5名、5年～3年勤務3名と全職員19名中14名が長い年月、くぬぎ園に勤務しております。働きやすい環境や相談しやすい職場作りを目指し職員と話合っ業務を進めてきた結果が職員の定住に繋がったと思います。
 ◇地域との良好な連携
 ・町内会に加盟し、町会長には運営推進会議のメンバーをお願いし、町会の祭りの神輿が事業所に訪問するなど地域との連携ができています。又、長年民生委員が地域と事業所のつなぎの役割をしてくれています。
【事業所が工夫している点】
 ◇大型空気清浄機の導入
 ・玄関と各フロアにHEPAフィルター内臓の業務用空気清浄機を配置して、乾燥や感染症の防止に努めています。
 ◇セラピー犬の訪問
 ・月1回、大型セラピー犬2匹で事業所を訪問しています。利用者リビングで交流したり、寝たきりの利用者には居室に訪問しています。利用者はセラピー犬の訪問を心待ちにしています。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ～ 14	1 ～ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ～ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ～ 35	9 ～ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ～ 55	14 ～ 20
V アウトカム項目	56 ～ 68	

事業所名	高津くぬぎ園
ユニット名	かりんユニット

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3, 利用者の1/3くらいの
			4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまにある
			4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3, 家族の1/3くらいと
			4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまに
			4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3, あまり増えていない
			4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を踏まえ利用者の人格を尊重しその人らしさを失うことなく、尊厳を大事にするよう職員に伝えている。また、出入口や事務所、休憩室などにも掲示し理念を共有している。	・理念は、入社時研修や期初の職員会議で職員に周知している。 ・管理者は、自分が後悔しない介護に努める事や自分の質を下げないことを職員に話している。職員は利用者寄り添い、人格の尊重に努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に入会し、町内行事や地域活動に参加（防災訓練、町内会総会、お祭りイベント等）する事で地域の一員としての役割作りを行っている。また、子供110番の場所として登録している。	・町会長が運営推進会議メンバーを勤めており、町会の祭りで神輿の中継所として事業所の自転車置き場を使用するなど、町会とは良い関係を作っている。 ・民生委員が地域と事業所のつなぎの役割をしてくれている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域活動に参加する機会が増え、町内会の方々と交流を持つことで事業所の役割やそこに暮らしている認知症高齢者について理解、地域の高齢者の相談などもして頂けるようになってきた。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年6回の運営推進会議にて参加者の方々と意見交換やサービスについての評価など通じ、これからの事業所運営に役立てている。また、地域資源の活用の観点から町内にある北見方公民館を使用している	・運営推進会議メンバーのケアプラザ職員から、併設する小規模のデイサービスの利用者を入居者として紹介があった。 ・会議メンバーからメールで意見徴収をして、会議で話し合っている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	現状報告、近況報告等を運営推進会議にて報告している。また、生活保護者の受入を行っている為、区役所保護課と密な連絡、連携をとっている。高齢支援課からも虐待の措置対応のお願いなどもあり、関りが強くなってきている	・生活保護受給者が8名おり、高津区役所保護の職員の訪問がある。 ・高齢支援課に、介護度の更新、区分変更で、事業所ケアマネが訪問し打ち合わせをしている。他に入居相談もある。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業者への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる。	3ヶ月に1回、身体拘束委員会を行っている。ジョブメドレーアカデミーにてオンライン研修を行っている	<ul style="list-style-type: none"> ・運営規程を入口に掲示し、身体拘束をしない事業所方針を示している。 ・職員は、利用者に対し、「この人が用事が済んだら次にね」との声かけで禁止用語を使わず、スピーチロックを防いでいる。 	
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年2回ジョブメドレーアカデミーにてオンライン研修を行っている。日常の利用者に対する声かけや言葉使い等にも注意を促している。何気ない言動が虐待にあっってしまう事がある事を職員に説明している。	<ul style="list-style-type: none"> ・虐待防止委員会を年2回実施している。委員会の内容は議事録を基にユニット会議で話し合いを行なっている。 ・食事中、「もういいですか?」との声掛けは、利用者本人の気持ちを考えない虐待に通じることだと注意をしている。 	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度は必要な方に支援しているが権利擁護に関しては年間研修スケジュールに取り入れ、ジョブメドレーアカデミーのオンライン研修にて行っている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者にて契約を結んでいる。説明には十分時間をかけ、書面の内容については、例えや説明を付け加えながら納得されるまで行っている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議の出席の際、意見や要望を伺っている。特に面会の際に個別にお話をする機会を設けている。また、家族便りや事業所だよりにて日頃の様子を報告している	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者家族からは、入居者に食べ物(菓子や果物)を持参し食べさせても良いかや、認知度の進行度合いなどの質問があり、事業所の考えを伝えている。 ・家族の質問の意図を理解し、家族のメンタルケアに努めている。 	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日常の申し送り、ユニット会議、連絡ノートを活用し話し合いの機会を設け反映させている。何でも言い合える職場の環境や人間関係を大切にしている。	・職員の意見・要望を聞く機会はユニット会議、管理者とフロアリーダーの全体会議、日常会話などがある。 ・職員の記録用にテーブルを購入し、書類を利用者に見られたり、触られたりすることを防止した。	
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の能力に応じ役割を任せている。職員の良い面を引き出し、輝き出せる職場環境作りに努めている。年に2回上半期、下半期に人事考課を行い個々の評価を行っている。また、処遇改善加算金の満額支給も行っている。	・職員の自己評価をフロアリーダー、管理者がチェックして人事考課を行なっている。 ・介護福祉士やケアマネージャー等の資格をした職員には、資格手当として給与に反映している。	
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月ジョブメドレーアカデミーのオンライン研修を全職員に行っている。オンラインのため、研修状況や理解度テストなどで学習の度合いを確認している	・就業規則を職員の目につきやすい、タイムカードの横に置き、職員がいつでも見られるようにしている。 ・年間研修計画をオンラインで実施し、受講結果を本社にフィードバックしている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	系列の他グループホームや小規模多機能などの出向き業務を行うなどサービスの向上の理解を深める努力を行っている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居者の面談時には、先方に出向き管理者・ユニットリーダー・ご家族様・ケアマネージャー・ソーシャルワーカー・医師等を交え、しっかり話を伺うようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	時間をかけ十分に納得して頂けるよう話をしている。入居時に家族から要望書を頂き職員で共有している。また、本人・ご家族様から意向を伺いながらケアプランを作成している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	暫定ケアプランを作成し、その方のできる事、できない事を見極め、次のサービスに繋げている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	常に人生の先輩として尊敬する気持ちを忘れないようにしている。職員には朝交わす挨拶から利用者の些細な変化や思いを感じ取れるようになって来ている。(機嫌の良し悪しや体調の些細な変化)		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員の役割として本人と家族の橋渡しになるように努めている。また家族便りの中でご様子などを報告したり、個別に電話にて情報を提供している。職員と家族が共に利用者の生活を支え合う関係作りが出来ている。		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	来園しやすい事業所の雰囲気作りを行うと共に、職員に来客時の接遇についても指導している。知人や兄弟の面会時は日頃のご様子をお伝えすると共に、知りえなかった昔々の情報を聞かせて頂く事で支援に結びつけ関係維持に役立てている。	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者の生活歴や職歴は入居時のアセスメントで把握している。 ・外からの電話や知人の来訪には家族の許可を得た場合のみ許可している。 	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	家族の様な関係作り、他者を心配したり、労わったりできる人間関係が保てるように支援している。孤立しがちな利用者様には職員が会話の橋渡しを行い交流の場を設けている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も相談や支援を行っている旨をお伝えしている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	業務に就く前の利用者様の顔をみて挨拶し、その時の利用者様の状態の把握に努めている。性格などを配慮しながらスキンシップを取り入れ、心を開ける様に心の声を聞く、きっかけ作りに役立てています。	・利用者の思いや意向は、日常会話の中で得て、表現困難者には表情や仕草で予測している。健康状態は排泄の様子で判断している。 ・食の希望は、新聞のチラシを見たり、本人の希望を聞き誕生会に反映している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に本人、家族にヒヤリング実施し、情報収集している。情報収集シートなどにご家族様にご記入頂き情報の把握と共有を行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	出勤時にお一人おひとりに挨拶しその日の顔色、声を聞き、過去の記録などを参照しながらその日の状態を把握して過ごし方を考えるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族の意向を伺い、モニタリングやユニット会議にて職員が意見交換し介護計画を作成している。ユニット会議には多くの職員が参加出来るよう調整を行っている。	・介護計画の期間は、長期1年、短期6ヶ月としている。カンファレンスはユニット会議で行ない、モニタリングは介護記録に欄を設けチェックしている。 ・家族意見は計画更新時や、事業所への来訪時に聞いている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録の他に特記事項、申し送りノートにて情報を共有している。サービス内容の実施について、介護記録の表面に記載する事でケア内容が分かりやすくなっております。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	介護記録の他に特記事項、申し送りノートにて情報を共有している。又、月に1度のユニット会議の際、個別のケア会議を行いその時に生まれるニーズに対応出来るように支援している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	感染対策の為、現在は中止しているが相談員の受け入れや老人会による昔の遊びを教える会などのお誘いもあり、事業所、利用者、地域との協働に努めている。		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回の訪問診療にて、本人、ご家族様の要望を聞きながら対応している。かかりつけ医を変えられない家族については、主治医と訪問医の連絡を密に行い情報を共有できる支援を行っている。	・協力医の内科は月2回訪問、看護師、歯科医は週1回訪問となっている。マッサージは週1回希望者で対応している。 ・通院は原則家族の付き添いとなっているが、依頼があれば職員が対応している。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の訪問看護にて、事業所と看護師が情報共有できる往診録を作成している。事業所側の要望と看護側の対応処置を細かく記載し、やり取りしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	診療情報提供書や介護サマリーのやり取りしている。入院中は、病院のソーシャルワーカーや医師と情報交換や退院後の相談、支援方法について連絡を取り合っている。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ADLや認知機能の低下から医療的行為や口からの食事摂取が難しい場合時などに家族と相談し特養申請の手続きのお手伝いを行っている。事業所として、経口摂取出来なくなると入居の継続は難しくなる旨を事前に家族に説明している。	<ul style="list-style-type: none"> ・重度化した場合の対応や見取りについて入居時に説明している。 ・重度化した場合は、医師、看護師、家族、管理者、職員で話し合い方針を決めて介護計画を見直ししている。 ・職員はターミナル研修を年1回受講している。 	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	AEDを常備し、ジョブメドレーアカデミーによるオンライン研修にて勉強会を行っている。応急手当については、全ての職員に実践力があるとは言えない。今後は看護師の協力を得て研修などで技術を身につけたい。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回防災訓練を行っている。今後、地域とのより協力的な体制を整えて行きたい。	<ul style="list-style-type: none"> ・夜間想定を含めた避難訓練を1階の小規模多機能型居宅介護施設と合同で行っている。 ・災害用備蓄品は倉庫に、マジックライス味付きセットや水、ビスコ保存缶等3日分賞味期限を一覧表で管理している。BCPを作成している。 	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	お一人おひとり、その方に合った言葉使いや声かけを行うように努めている。同じ名字の方などはご家族様同意のもと名前でお呼び立て頂いており、節度ある関係を心掛け、配慮ある言葉掛けを職員間で共有している。	<ul style="list-style-type: none"> ・プライバシー保護の研修は、4月に個人情報保護の研修と一緒にしている。 ・管理者は全体会議やフロア会議にて利用者の尊厳を守るため、利用者の声掛けには、状況に応じて居室番号で呼んだり、名字で呼んだり使い分けを指導している。 	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	意思表示がしやすい環境作りや雰囲気作りに努めている。入浴時の着替えなどご自分で準備できる方にはお願ひし、自己選択、自己決定が出来る支援を行っている。また、宅配レクリエーションのメニューも当日にその場で決めて頂く等、選択や決定の機会を設けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	自由な時間はお好きなことをして過ごして頂く。今を大切に「したい時」「したい事」を声かけしながら本人の思いを傾聴・支援し、利用者のペースで生活できるよう手助けを行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴時の着替えについては本人の希望を聞きながら職員と一緒にそろえるお手伝いをしている。また、イベント時に女性の利用者様に化粧を行いおしゃれを楽しむ機会を設けている。		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	お誕生日会やおやつ作りレクリエーションなどの時に利用者様の嗜好に合わせ召し上がりたい物を提供している。また、毎食後、食器拭きや布きん畳などを行っている。その他にも歯科医による嚥下テストを行い、その方にあった食事形態で提供している。	<ul style="list-style-type: none"> ・食事は業者調達で、湯煎にて提供している。お誕生日会では行事食として、ちらし寿司やケーキ、ベトナム料理を楽しんでいる。 ・歯科衛生士にて食事を楽しむため嚥下テストで、嚥下反射を確認し誤嚥がないよう注意している。 	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量、水分摂取量を測定している。医師と話し合い病状や状態に応じてその方に合った食事摂取、食事制限や食事量の調整を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	利用者様の能力に応じて声かけ、介助を行っている。義歯は、夕食後洗浄剤にて清潔に使用できるよう支援している。一週間に一回は歯科医師、歯科衛生士により口腔ケアを実施している。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	その方の排泄パターンを知り定期的に声かけを行っている。昼間は出来る限りトイレでの排泄を促し、自立支援を行っている。	<ul style="list-style-type: none"> ・職員は紙ベースで時間を決めて排泄管理表をチェックし、仕草を確認して声掛けをしている。 ・適切なトイレ誘導によりリハビリパンツから布パンツに改善した利用者もいる。 ・夜間にポータブルトイレを使用している利用者もいる。 	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の体操や水分強化の声かけを行っている。又慢性の便秘がちの方については医師と相談し、薬の処方をお願いしている。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	希望や体調を優先的に考えながらローテーションで実施している。又、急な失禁時は、入浴の時間帯でなくても入浴の機会を設けている。	<ul style="list-style-type: none"> ・入浴は1週間に2回午前楽しんでしている。脱衣所は暖房し、ヒートショック対応をしている。 ・入浴拒否者に対しては、入浴の準備をして、いつでも入浴できることを伝え対応している。 ・利用者はゆず湯でリラックスしたり職員と会話を楽しんでいる。 	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その方に合った休息の時間を設けている。午後時間に30分～1時間程設けることでその後の活動性が高まり活気よく過ごすことができ、夜間の安眠にも繋がっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	用法、用量について理解してもらうために全職員が服薬、薬のセットに携わり周知できるように努めている。与薬マニュアルにより誤薬や服用ミス等の防止にも努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常生活のお手伝い（食器ふきや洗濯たたみなど）をして頂く事によって生活に張りを持たせている。また、ケアプランの中にも役割をサービス内容に入れることで、全職員が同じ支援ができるような工夫も行っている。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	定期的な外出レクの計画を立てているが感染症の防止の観点から中止している。室内のレクリエーションも誕生日会と季節の行事をおこなっている。	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者の希望で近隣を30分位散歩している。 ・事業所の前の駐車場や3階の屋上で外気浴をしている利用者もいる。 ・外出が難しい場合は、事業所内で歌を歌ったり体操をしたりしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者の気分転換や健康維持のため散歩は引き続き継続されながら、外出レクリエーションが期待されます。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	不定期ではあるが、近隣のスーパーに昼食やおやつを買いに行く買い物支援を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご希望によって電話の取り次ぎを行ったり、はがきの準備や投函なども支援の一つと考え実施している。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎月リビングルームの飾りを変え季節感も感じて頂くように工夫している。温湿度計に注意し、心地良い快適な空間作り心掛けている。	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者はリビングの掃除を手伝っている。 ・大型の空調設備により、心地よさ快適さを作り、温湿度計にも注意して体調管理をしている。 ・利用者は、月1回のセラピー犬の訪問を楽しみにしている 	
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	仲の良い利用者、同じ趣味のある方がご自分の思いのまま、自由な時間を過ごしている。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に今迄ご使用されていた生活用品をそのまま持参して頂く様にお願いをしています。ご自身の馴染みの家具やベッドは自宅の香りや温もりを感じさせ精神安定にもつながっている。	<ul style="list-style-type: none"> ・居室には、クローゼット、照明、エアコン、希望があればベッドを設置設備している。転倒防止のため、家族の了解のもとでを得て全室人感センサーを設置している。 ・利用者は、居室掃除を手伝ったり、使い慣れたテレビや家族写真を持ち込んでいる。 	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室、トイレ、浴室等にプレートを付け混乱の無い様に生活している。居室についてはその方に合ったプレートの位置を考え工夫している。		

事業所名	高津くぬぎ園
ユニット名	あんずユニット

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3, 利用者の1/3くらいの
			4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまにある
			4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3, 家族の1/3くらいと
			4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまに
			4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3, あまり増えていない
			4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を踏まえ利用者の人格を尊重しその人らしさを失うことなく、尊厳を大事にするよう職員に伝えている また、出入口や事務所、休憩室などにも掲示し理念を共有している。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に入会し、町内行事や地域活動に参加（防災訓練、町内会総会、お祭りイベント等）する事で地域の一員としての役割作りを行っている。また、子供110番の場所として登録している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域活動に参加する機会が増え、町内会の方々と交流を持つことで事業所の役割やそこに暮らしている認知症高齢者について理解、地域の高齢者の相談などもして頂けるようになってきた。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年6回の運営推進会議にて参加者の方々と意見交換やサービスについての評価など通じ、これからの事業所運営に役立てている。また、地域資源の活用の観点から町内にある北見方公民館を使用している		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	現状報告、近況報告等を運営推進会議にて報告している。また、生活保護者の受入を行っている為、区役所保護課と密な連絡、連携をとっている。高齢支援課からも虐待の措置対応のお願いなどもあり、関りが強くなってきている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業者への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる。	3ヶ月に1回、身体拘束委員会を行っている。ジョブメドレーアカデミーにてオンライン研修を行っている		
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年2回ジョブメドレーアカデミーにてオンライン研修を行っている。日常の利用者に対する声かけや言葉使い等にも注意を促している。何気ない言動が虐待にあっってしまう事がある事を職員に説明している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度は必要な方に支援しているが権利擁護に関しては年間研修スケジュールに取り入れ、ジョブメドレーアカデミーのオンライン研修にて行っている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者にて契約を結んでいる。説明には十分時間をかけ、書面の内容については、例えや説明を付け加えながら納得されるまで行っている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議の出席の際、意見や要望を伺っている。特に面会の際に個別にお話をする機会を設けている。また、家族便りや事業所だよりにて日頃の様子を報告している		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日常の申し送り、ユニット会議、連絡ノートを活用し話し合いの機会を設け反映させている。何でも言い合える職場の環境や人間関係を大切にしている。		
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の能力に応じ役割を任せている。職員の良い面を引き出し、輝き出せる職場環境作りに努めている。年に2回上半期、下半期に人事考課を行い個々の評価を行っている。また、処遇改善加算金の満額支給も行っている。		
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月ジョブメドレーアカデミーのオンライン研修を全職員に行っている。オンラインのため、研修状況や理解度テストなどで学習の度合いを確認している		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	系列の他グループホームや小規模多機能などの出向き業務を行うなどサービスの向上の理解を深める努力を行っている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居者の面談時には、先方に出向き管理者・ユニットリーダー・ご家族様・ケアマネージャー・ソーシャルワーカー・医師等を交え、しっかり話を伺うようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	時間をかけ十分に納得して頂けるよう話をしている。入居時に家族から要望書を頂き職員で共有している。また、本人・ご家族様から意向を伺いながらケアプランを作成している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	暫定ケアプランを作成し、その方のできる事、できない事を見極め、次のサービスに繋げている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	常に人生の先輩として尊敬する気持ちを忘れないようにしている。職員には朝交わす挨拶から利用者の些細な変化や思いを感じ取れるようになって来ている。(機嫌の良し悪しや体調の些細な変化)		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員の役割として本人と家族の橋渡しになるように努めている。また家族便りの中でご様子などを報告したり、個別に電話にて情報を提供している。職員と家族が共に利用者の生活を支え合う関係作りが出来ている。		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	来園しやすい事業所の雰囲気作りを行うと共に、職員に来客時の接遇についても指導している。知人や兄弟の面会時は日頃のご様子をお伝えすると共に、知りえなかった昔々の情報を聞かせて頂く事で支援に結びつけ関係維持に役立っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	家族の様な関係作り、他者を心配したり、労わったりできる人間関係が保てるように支援している。孤立しがちな利用者様には職員が会話の橋渡しを行い交流の場を設けている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も相談や支援を行っている旨をお伝えしている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	業務に就く前の利用者様の顔をみて挨拶し、その時の利用者様の状態の把握に努めている。性格などを配慮しながらスキンシップを取り入れ、心を開ける様に心の声を聞く、きっかけ作りに役立てています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に本人、家族にヒヤリング実施し、情報収集している。情報収集シートなどにご家族様にご記入頂き情報の把握と共有を行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	出勤時にお一人おひとりに挨拶しその日の顔色、声を聞き、過去の記録などを参照しながらその日の状態を把握して過ごし方を考えるようにしている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族の意向を伺い、モニタリングやユニット会議にて職員が意見交換し介護計画を作成している。ユニット会議には多くの職員が参加出来るよう調整を行っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録の他に特記事項、申し送りノートにて情報を共有している。サービス内容の実施について、介護記録の表面に記載する事でケア内容が分かりやすくなっております。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	介護記録の他に特記事項、申し送りノートにて情報を共有している。又、月に1度のユニット会議の際、個別のケア会議を行いその時に生まれるニーズに対応出来るように支援している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	感染対策の為、現在は中止しているが相談員の受け入れや老人会による昔の遊びを教える会などのお誘いもあり、事業所、利用者、地域との協働に努めている。		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回の訪問診療にて、本人、ご家族様の要望を聞きながら対応している。かかりつけ医を変えられない家族については、主治医と訪問医の連絡を密に行い情報を共有できる支援を行っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の訪問看護にて、事業所と看護師が情報共有できる往診録を作成している。事業所側の要望と看護側の対応処置を細かく記載し、やり取りしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	診療情報提供書や介護サマリーのやり取りしている。入院中は、病院のソーシャルワーカーや医師と情報交換や退院後の相談、支援方法について連絡を取り合っている。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ADLや認知機能の低下から医療的行為や口からの食事摂取が難しい場合時などに家族と相談し特養申請の手続きのお手伝いを行っている。事業所として、経口摂取出来なくなると入居の継続は難しくなる旨を事前に家族に説明している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	AEDを常備し、ジョブメドレーアカデミーによるオンライン研修にて勉強会を行っている。応急手当については、全ての職員に実践力があるとは言えない。今後は看護師の協力を得て研修などで技術を身につけたい。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回防災訓練を行っている。今後、地域とのより協力的な体制を整えて行きたい。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	お一人おひとり、その方に合った言葉使いや声かけを行うように努めている。同じ名字の方などはご家族様同意のもと名前で呼ばせて頂いており、節度ある関係を心掛け、配慮ある言葉掛けを職員間で共有している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	意思表示がしやすい環境作りや雰囲気作りに努めている。入浴時の着替えなどご自分で準備できる方にはお願ひし、自己選択、自己決定が出来る支援を行っている。また、宅配レクリエーションのメニューも当日にその場で決めて頂く等、選択や決定の機会を設けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	自由な時間はお好きなことをして過ごして頂く。今を大切に「したい時」「したい事」を声かけしながら本人の思いを傾聴・支援し、利用者のペースで生活できるよう手助けを行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴時の着替えについては本人の希望を聞きながら職員と一緒にそろえるお手伝いをしている。また、イベント時に女性の利用者様に化粧を行いおしゃれを楽しむ機会を設けている。		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	お誕生日会やおやつ作りレクリエーションなどの時に利用者様の嗜好に合わせ召し上がりたい物を提供している。また、毎食後、食器拭きや布きん畳などを行っている。その他にも歯科医による嚥下テストを行い、その方にあった食事形態で提供している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量、水分摂取量を測定している。医師と話し合い病状や状態に応じてその方に合った食事摂取、食事制限や食事量の調整を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	利用者様の能力に応じて声かけ、介助を行っている。義歯は、夕食後洗浄剤にて清潔に使用できるよう支援している。一週間に一回は歯科医師、歯科衛生士により口腔ケアを実施している。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	その方の排泄パターンを知り定期的に声かけを行っている。昼間は出来る限りトイレでの排泄を促し、自立支援を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の体操や水分強化の声かけを行っている。又慢性の便秘がちの方については医師と相談し、薬の処方をお願いしている。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	希望や体調を優先的に考えながらローテーションで実施している。又、急な失禁時は、入浴の時間帯でなくても入浴の機会を設けている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その方に合った休息の時間を設けている。午後時間に30分～1時間程設けることでその後の活動性が高まり活気よく過ごすことができ、夜間の安眠にも繋がっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	用法、用量について理解してもらうために全職員が服薬、薬のセットに携わり周知できるように努めている。与薬マニュアルにより誤薬や服用ミス等の防止にも努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常生活のお手伝い（食器ふきや洗濯たたみなど）をして頂く事によって生活に張りを持たせている。また、ケアプランの中にも役割をサービス内容に入れることで、全職員が同じ支援ができるような工夫も行っている。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	定期的な外出レクの計画を立てているが感染症の防止の観点から中止している。室内のレクリエーションも誕生日会と季節の行事をおこなっている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	不定期ではあるが、近隣のスーパーに昼食やおやつを買いに行く買い物支援を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご希望によって電話の取り次ぎを行ったり、はがきの準備や投函なども支援の一つと考え実施している。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎月リビングルームの飾りを変え季節感も感じて頂くように工夫している。温湿度計に注意し、心地良い快適な空間作り心掛けている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	仲の良い利用者、同じ趣味のある方がご自分の思い思いのまま、自由な時間を過ごしている。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に今迄ご使用されていた生活用品をそのまま持参して頂く様にお願いをしています。ご自身の馴染みの家具やベッドは自宅の香りや温もりを感じさせ精神安定にもつながっている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室、トイレ、浴室等にプレートを付け混乱の無い様に生活している。居室についてはその方に合ったプレートの位置を考え工夫している。		

目 標 達 成 計 画

事業所名

高津くぬぎ園

作成日

令和 7年 12月 29日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1		利用者の気分転換や健康維持のため散歩は引き続き継続されながら、外出レクリエーションが期待されます。	定期的な散歩や屋上での外気浴は継続しながら、季節ごとに外出行事を企画する（感染症防止の観点から屋外）	春先や秋頃には二ヶ領用水沿いの緑道、二子坂戸緑道（みどり公園）への外出や等々力公園へのお花見、お正月には坂戸にある御岳神社に初詣に行くなどを行っていく	1年間
2					
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。